

(34)

氏名 (生年月日)	森 川 哲 夫 モリ カワ テツ フ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第 221号
学位授与の日付	昭和50年12月19日
学位授与の要件	学位規則第 5条第 2項該当 (博士の学位論文提出者)
学位論文題目	完全大血管転位症の外科治療 一病型からみた手術手技の検討一
論文審査委員	(主査) 教授 今野 草二 (副査) 教授 広沢弘七郎, 教授 久保田くら

論 文 内 容 の 要 旨

研究目的

完全大血管転位症は自然予後の最も悪い先天性心疾患の一つである。その上本症は合併する心内奇型により、全くその臨床像および自然予後を異にする。とくに心室中隔欠損を伴う症例では、早期に重篤な肺高血圧症に陥る。したがって生後早期に確実な診断と合併奇形に適した治療計画を立てなければならない。本論文の目的は、過去に経験した症例をもとにして合併奇形により分類し、おのおのの外科治療、その成績および肺組織の検索により手術適応、手技などを検討して、合理的な治療方針を明らかにするにある。

研究方法

1965年以降、外科治療を施行した 103例を対象とした。これを下記の I～III群に分け、おのおのの群の治療、成績、肺組織所見などを検討した。

I群：心室中隔欠損を伴わないもの、またはあつても血行動態的に問題とならない小さいもの。

II群：大きな心室中隔欠損を伴うもの。

III群：心室中隔欠損兼肺動脈狭窄を伴うもの。

I群は34例で、姑息手術20例、根治手術14例であつた。年齢は3カ月以下が20例と全体の約60%を占めていた。死亡率はそれぞれ80%、36%であつた。姑息手術の症例の多くは1970年以前の例であるが、この群に対する姑息手術はあまり有用な救命手段でないことを物語っていた。

II群は34例で、姑息手術22例、根治手術12例であつた。死亡率はおのおの46%、83%であつた。本群の死亡例の

肺組織像をみると、6カ月以下は全例 Heath-Edwards 分類の III度以下であるのに対して、3歳以上では全例IV度以上の重篤な肺高血圧症に陥つていた。根治手術例の83%が1歳以上であつたことから、手術時期に問題があつた。

III群は35例で、姑息手術22例、根治手術13例で、おのおの死亡率は14%、46%であつた。この群の根治手術として Rastelli 手術を適応してから、死亡率は33%に減少した。また5歳以上では全例救命したのに対して、4歳以下は全例死亡した。

研究結果

I群：この群のものは生後数週間以内に大部分が死亡する。したがって、速かに Balloon Atrial Septostomy (BAS) を施行する。生後6～12カ月で Mustard 法による心内修復術を行なう。BAS 効果のないものには3カ月以下でも積極的に Mustard 法を適応する。

II群：この群のものは肺組織学的に6カ月以下、おそくとも12カ月以下で手術しなければならない。3カ月未満で重篤な臨床症状を示したものは肺動脈絞扼術兼心房中隔欠損作成術を行なう。3～12カ月では Mustard 法兼心室中隔欠損閉鎖術を行ない、1歳以上では肺高血圧症の程度により術式を選択する。

III群：この群のものは比較的予後良好である。1歳以下で重篤な臨床症状を示すことはまれである。4歳以下で臨床症状の悪化したものには Blalock-Taussig の短絡術を施行する。5歳以上では Rastelli 法による心内修復術を行なう。

論文審査の要旨

予後の最も悪い先天性心疾患のひとつである完全大血管転位症をとりあげ、その原因と対策法を研究した。

特に、合併奇形により分類し、それぞれについて合理的な治療指針を明らかにしたことは、学問的に価値あるばかりではなく、臨床成績をあげるうえに非常な貢献をはたした。価値のある研究ととめる。

主論文公表誌

完全大血管転位症の外科治療—病型からみた手術手技の検討—

日本胸部外科学会雑誌 第22巻 7号 76頁
(1975)

副論文公表誌

- 1) 完全大血管転換症における心室中隔欠損症の外科解剖—根治手術の問題点—
心臓 3 467 (1971)
- 2) 右室低形成疾患における Eustachian弁の機能と形態。
心臓 3 1426 (1971)
- 3) 糖尿病を合併した心室中隔欠損を伴う右室2腔心症の1治療例。
心臓 4 476 (1972)
- 4) 完全大血管転換症における ACG 診断—心室中隔

欠損の位置—

- 心臓 4 878 (1972)
- 5) 完全大血管転換症における心電図学的特徴—特に合併奇形による分類—
心臓 5 791 (1973)
 - 6) 大血管転換症々候群の根治手術—Rastelli 手術の問題点—
胸部外科 26 609 (1973)
 - 7) 6 kg以下の乳児開心術と術後管理。
心臓 6 320 (1974)
 - 8) 生体弁置換による右室流出路肺動脈幹再建の遠隔成績。
心臓 6 650 (1974)
 - 9) 腹部大動脈瘤が下大静脈に破裂した87歳女性の1手術治験例。
外科 36 963 (1974)